

データで読み解くこれからの信用金庫経営（7） 金融業・保険業向け貸出

—他業種に比べて貸出金増加率が高い傾向にある—

ポイント

- 2023年度末の貸出金残高は、前年度末比7,303億円、0.9%増の80兆5,608億円となった。年度中の増加率は2022年度の1.3%増から鈍化している。
- 業種別で見ると、金融業・保険業向け貸出の増加率が高い傾向となっており、同業種向けの貸出構成比が10%超となっている信用金庫が増加傾向にある。
- 金融業・保険業向け貸出の増加要因として、一部の信用金庫では証券会社向け融資である「仕組貸出」等にて貸出残高を伸ばしている例もみられる。

1. 貸出金残高（全国）の状況

2023年度末の貸出金残高は、前年度末比7,303億円、0.9%増の80兆5,608億円となった。年度中の増加率は2022年度の1.3%増から鈍化している。また、過去10年間における貸出金残高の推移を、2014年度末を100として指数化すると、2021年度以降の増加ペースは鈍化傾向となっている（図表1）。

2020年度には、コロナ禍における実質無利子・無担保の制度融資（いわゆるゼロゼロ融資）の伸びが大きく影響している。コロナ禍以降、中小企業の景況感は回復基調にあるものの、信用金庫の貸出金増加率は鈍化傾向にある。

（図表1）貸出金残高の状況



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 貸出金増加率（業種別）の状況

上述のとおり、貸出金増加率が鈍化傾向にある中、業種別の増加率を示す（図表2）。図表2では、2023年度末の貸出金残高が多い業種順に1兆円以上の業種を抽出し、各年度末残高の前年同月比増加率の推移を示している。

2020年度末は大半の業種において大きく増加したが、2021年度以降は一部の業種（不動

産業、金融業・保険業)を除き、総じて増加率が鈍化・減少傾向に転じている。一方で、金融業・保険業における増加率は、他業種に比べ高い傾向となっている。

(図表2) 貸出金(業種別)の状況

	貸出金残高 (2023年度末時点)	前年同月比増加率 (残高単位:兆円)			
		2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末	2024年3月末
貸出金計	80.5	7.9%	0.4%	1.3%	0.9%
個人(住宅・消費等)	20.9	-0.4%	0.4%	0.9%	1.2%
不動産業	18.5	1.1%	1.5%	2.8%	2.9%
建設業	6.9	29.7%	1.3%	0.9%	-1.2%
製造業	6.6	13.3%	-0.9%	0.4%	-2.4%
地方公共団体	5.2	-1.6%	-2.2%	-1.1%	2.3%
卸売業	3.3	18.0%	0.0%	1.0%	-1.8%
小売業	3.1	22.4%	-0.2%	0.1%	-1.7%
金融業・保険業	3.1	1.6%	7.6%	9.8%	10.3%
その他のサービス	2.7	22.3%	-2.8%	0.0%	0.2%
医療・福祉	2.4	10.6%	-2.4%	0.7%	0.7%
運輸業、郵便業	1.8	19.7%	0.3%	0.4%	-0.6%
生活関連サービス業、娯楽業	1.2	23.9%	-2.0%	-2.7%	-2.7%
飲食業	1.2	51.5%	-0.3%	-2.1%	-3.8%

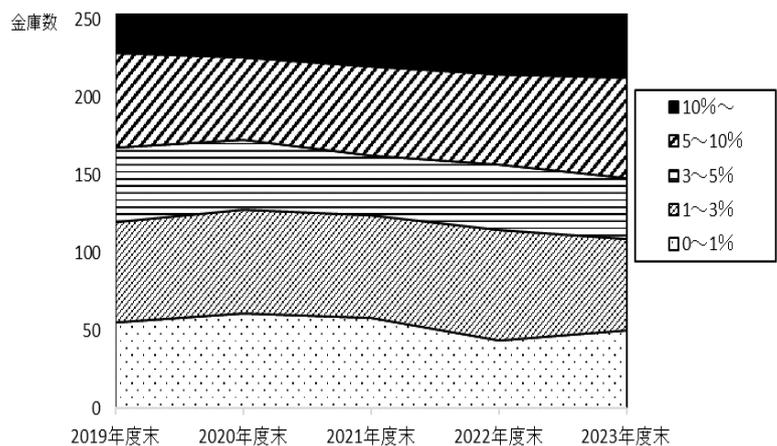
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

3. 信用金庫における金融業・保険業向け貸出の状況

全国信用金庫の貸出残高に占める金融業・保険業向け構成比は、2019年度末の全国平均(加重平均)3.22%に対し、2023年度末には3.86%と上昇している。

信用金庫別の金融業・保険業向け貸出残高構成比の状況(図表3)をみると、構成比10%超となった信用金庫は2023年度末には254金庫中41金庫となり、5年間で16金庫増加している。また、同構成比が2割を超える信用金庫もみられるなど、一部信用金庫で構成比が高まっている。

(図表3) 信用金庫別の金融業・保険業向け貸出残高構成



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。